

雨中平から湯本迄 僅か卅五分

兩選手勇躍して走る

平町の熱狂的歓迎振り

青森東京間五百數十哩を走破するマラン選手日本齒科醫專の鈴木嘉政、百瀬清治の兩君は昨報の如く折柄の雨を衝いて昨日午後七時半銀行前のゴールに到着したが是れより先き平銀行前には兩君の勇姿に接せんとする人々垣を穿つて奔めき合ひ待つ間程なく兩選手は青年團其他の歓迎自動車にまもられて草野驛迄出迎へた警中

選手共一散に

雨の道を走つて萬歳と拍手の渦に突入する斯くて喝采裡に警中競技部からの大花輪は兩選手に贈呈され一同整列して後元平商校舎の歡迎茶話會場に臨む佐藤助役鷹崎町議、遠藤、萩原兩齒科醫、警中教諭、新聞記者青年團員、其他多數の参列者あり歡迎の煙火冲天に轟き記念の撮影あつて水本警中教諭歡迎の辭を述べ今回

壯圖を賞揚し其の

勞をねぎらふ處あり、兩選手是れに答へ夫れより自動車を駆つて住吉屋本店に投宿伏見町長よりの記念品を受け今朝七時半再び平銀行前に起ち水本教諭の引金ひく短銃の音を合圖に出發警

游泳の心得

溺れる者の救助法

水泳する場合には必ず先づ準備運動をしてから入らねばいけない、即ち軽い徒手体操をして後にするがよい

なほ青梅綿を耳に詰め或はパラフィンか、ゴム栓でもよいがこれは聴力を妨げるのが欠點である。なほ唾を耳に入れて排水をはかるもよい。次に

海水に 浸るには先づ體全体を濡してから泳ぎ初めるのであるが、游泳中は絶えず運動を續けて体温

の發生を盛んならしめるがよろしい、なほ布帽子を使用し特に、炎天の際は時々それを濡すことを忘れてはいけない、游泳中若し肺腸筋の痙攣を起したら仰向けになつて深呼吸をしながら救ひを求めたい

場合に

中に沈み指を掴んで反復屈伸するがよいや、重い時は水面に沈んだまゝ呼吸しつつこれを進行救助を求めるとよい、あはてるのは禁物である、また浪の荒い日などには兎角頭から波をかぶりやすいものであるがこの際にもあはてずなるべく

非常に激動してくれまじ、殊に此の平町の歓迎振りには我々の豫期しなかつた事で實に嬉し涙にぐれました

明後日から

大丈夫晴れ

小名濱の觀測

昨今の天候に關し小名濱測

鯉飛び切りの高値

各濱荒れて出漁なく

石城七濱は二十七日夜來海荒萬一を慮り警戒中二十九日には各濱とも一層甚だしく激浪高く小名、江名、四ツ倉、久ノ濱その他各濱漁船はことごとく入港避難したが四ツ倉では多量の魚肥か激浪にさらはれたが双葉郡請戸濱はじめ同方部各濱は相當被害あつた模様であるが小名濱測候所では「こ

候所の觀測に依れば小笠原島附近に生じた颯風が漸次北進する爲め本日濱通り一帯は荒れ模様となり明日も雨は降るが北進した颯風が樺太附近の高氣壓を吹き飛ばして二日からは晴れとなり急激な暑熱が襲つて來るであらうと

果樹に害虫

天候不順で

山崎光雄教諭指導の下に講習會を開始すると

石城郡地方の農作物は土用中の天候不順に禍され各町村の水稲には稻熱病が發生し稻株の分蘖も甚だ不成績で一般農家は非常に憂慮して居るが一方同郡平窪村の梨園三十餘町歩の内害虫椿象蟲が發生し相當打撃が多いので石城農試分場では此の程同村上平窪地内梨園に害蟲驅除試驗地を設け流酸ニコチン簡易乳劑ネオトンデグス等の新藥にて幼蟲及び成蟲の驅除中であるが何れも天候不順故の結果で一般農家は困憊してゐる

退役將校某の行動を

憲兵隊秘密に取調ぶ

特高課中村警部も來平

仙台憲兵分隊羽田野中尉は二十九日平町に出張特高課から出張した中村警部と打合せをなし三十日引續き何事か取調へて居たが平町退役將校某が東京の某々と



庭家

待宵草と月見草

夕を彩る待宵草は、詩に歌にうたはれてゐて、月見草の別名として皆に知られた花ですが、待宵草と月見草

とは異つた花です普通皆さんが月見草といつてゐるのは待宵草をさしてゐるの、月見草の花は夕顔のやうに眞白でほほみかけには薄紫色に變つてゆきますが待宵草の方は黄色の花で茶褐色にしぼんでゆきます嘉永年間に月見草はメキシコの方から待宵草は北米の方から

平靜に

して若し口に入つたら靜かに吐き出し又顔にかゝつた水を直ちに拭ひ去らず自然に水の切れるのをまつがよろしいでない早く乾かると、それから游泳中悪感を覺え初めたら直ちに陸に上つて全身をよく拭き着物を着て感冒を豫防しなければいけない唇等が紫色になり温まらないのは皮膚の血管神経が痙攣したのだからなるべく暖かくしてゐるがよろしい。次に溺れかゝつてゐる人を救ひ上げることは相當泳ぎの

にすると二人一しよにお陀佛となつてしまひやすい程危険である、そこでその救助法を二三記して見やう

救助者は溺水者の兩手を自分の肩に軽く置かせて彼の顔を水面上に保たせながら自分は平泳によつて陸地へ運ぶ、これは溺水者が餘りあつてゐる場合に限る。若し溺水者が多少泳げるなら向ひ合つた

姿勢で

彼の後頭部をこらへて顔を水面上に保たせつゝ自分は背泳で陸地へ連れて來る溺水者はあはて、掴みかゝつたら兩手で腋下又は胸の邊り或は上膊の中程を捕へるがよい。そして背泳ぎで引き上げる救助者の頸にからみつかうとする場合

身體を

突き放すその際背を曲げ力をこめて彼の胃の邊りを突いて逃げよ又腕關節部や前膊にからみついなら臂に力をこめてこれを上前方に擧げ次に側方に開き同時に外側に強く捻つて逃げよ